

No.11

京林大だより



絵:京林大生 熊走君

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

地域の課題解決に向けて！

林大生の各地域での実習状況を紹介します。



仏主



2年生の森林公共政策特講の授業では、仏主を中心とした和知北部地域を対象に活動しています。

「森林公共政策」とは、森林を活用した地域活性化など、地域が抱える課題に森林・林業を軸に取り組み新しい分野です。

森林公共人材専攻では林業大学校での授業と併せて、協定により京都府立大学公共政策学部の講義を受講しています。森林公共政策特講では、そうした知識をフルに活用して地域の課題解決のための提案に挑戦しています。

12月には仏主生産森林組合が行う、しいたけのほだ木用の立木伐採に参加させていただきました。また、伐採後は公民館にて地元の方から地域の実情についてお聞きすることができました。今後、卒業研究・論文作成でそれぞれが考える提案を行っていく予定です。



安栖里



2年生の森林経営計画作成2の授業では、安栖里の柳原谷を実習地として計画作成を行うことにしています。

12月10日には京丹波森林組合の方に案内をいただき柳原谷の概要調査をしました。学生達は、1月中にさらに何度か現地を調査し、路網や間伐等の計画を具体化していきます。

大迫



1年生の鳥獣被害対策の授業では、12月17日大迫で集落点検の実習をさせていただきました。大迫では、侵入箇所を強化し、再侵入を許さないような工夫があちこちで見られ、学生にも大変参考になりました。



京林大生の **募集中！**
下宿情報

平成26年4月に入学する京林大生の住まい情報を探しています。

空き家、空き離れなど、林大生の住まいとして利用させていただける住居の情報がありましたら、ぜひお寄せください。

お問い合わせ窓口

京都府立林業大学校 TEL 0771-84-2401

京丹波町役場和知支所 TEL 0771-84-0200

☆2013林大10大News☆

- ▲フレッシュな若者 第2期生23名入学（4月）
 - ・お餅をついて歓迎してくださった
和知のみなさんありがとう！
 - ・「日本海ウォーク」
新入生が山道を52km歩いて舞鶴へ
- ▲教育環境の充実
 - ・実習棟完成、林業図書の寄贈（3月）
 - ・学生ホール！
地元スギの床板でグレードアップ（8月）
- ▲“林業大学のうた” 林大で本邦初披露（5月）
- ▲海外からの視察者受入れ（5月～10月）
韓国、東ティモール、ニュージーランド、インド
- ▲ドイツ研修旅行（6月） 2年生見聞を広げる！
- ▲特別講義 皆川農林水産事務次官（6月）
沼田林野庁長官（9月）
- ▲オープンキャンパス（8月）
地元の方々が只木校長の講演に感激
- ▲人・里・山交流実習（9月～11月）
 - ・筏流し体験（亀岡市）
 - ・丸太椅子で市民交流（園部町）
 - ・シイタケ原木伐採（京丹波町）
- ▲キャップストーン研修に挑戦（9月）
2年生17名が腕を磨く
- ▲第1期生就職活動始まる（12月）
担い手誕生の最終ステージ

◆ 彼らのこれからの活躍を祈念！

京林大入試情報

後期一般入試を下記のとおり行います。
出願方法については、本校ホームページをご覧ください。
いただくか、本校までお問い合わせください。

出願期間	1月24日(金)～2月14日(金)
試験日	2月21日(金)
試験科目	現代文、数的処理 小論文、面接
合格発表	2月28日(金)

今後の予定

3月10日(月)
平成25年度 第1期生卒業式

開校2年目。
初めての卒業生を送り出します。

校長室より

『タケ・たけ・竹』

2014年新春。目出度い樹木といえば「松竹梅」。去年はマツを話題にしました。で、今年もタケを。

タケといえば、マツ衰退後の里山に侵出が目立ち、在来の林を圧迫するので今評判が悪いのですが、元はといえば、竹の子を賞味し、竹材を様々な用途に使って、日本文化の一翼を担うものでした。エジソンの白熱電球も日本産のタケでした。

タケは、地下茎繁殖ですから斜面を登るのは不得手と思われていましたが、どうしてどうして。隣の藪から地下茎が、いつの間にやら在来の林に侵入し、春に芽を出す竹の子は20日ばかりで急伸長、気が付けばタケの枝葉が広がって、先住の木々は日陰に、というのが現状。竹の子の伸びる速度の最高記録は1日120cm(モウソウチク)とか。竹の子と言えば、その中から出てきた「かぐや姫」。

僅か3寸とはいえ、女の子が入っているのですからやはり太いタケ、と孟宗竹を想像し、絵本などもそれらしくなっています。しかし、それは妄想(モウソウ)? のようで、モウソウチクが中国からわが国に渡来したのは江戸時代とされ、平安初期には完成していたと言われるこの物語のタケは在来のマダケ(真竹)だったでしょう。さて、「松竹梅」と言われながら、花札にタケがないのは不思議です。松に鶴、梅に鶯といったうまい動物が居なかったからでしょうか。いえ、竹に雀や虎が居たはず。でも、雀は小物過ぎた? 虎は大物過ぎた?



(校長 只木良也)